

# 4・28沖縄デー闘争へ!

2017年4月22日  
No.457

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

## 法大・東北大で新歓企画が大成功!

### ◆法大

4月18日、法政大学・社会科学研究会の主催で、全学連の斎藤郁真委員長を招き、「軍学共同と学生の貧困について考える」と題した新歓講演会を行いました。新入生も参加し、大いに議論が盛り上がりました。

講演会後の討論の焦点になったことは、「政治と労働の分断」というテーマです。これこそ新自由主義で問題になっている核心です。キャンパスや職場では日常的に政治が奪われ、労働運動・学生運動もできない。そこ以外の街頭などで政治活動がされているあり方をどうのりこえるのかが問題になりました。

安倍や大学当局が最も恐れているのは、キャンパスや職場から闘いが巻き起こること＝ストライキです。「労働を奪還する」「学生・労働者の主体性を取り戻す」「ゼネストを闘い取るプロセスが重要だ」と活発な意見・討論が交わされました。どうい学生運動をつくりたいのかという議論は重要でした。

今年、全学連と法大文化連盟は安倍政権と軍事研究に対して、学生が教育・政治を取り戻し、戦争を止める全国学生ストライキに挑戦します!

### ◆東北大

東北大学で4月18日、京都大学全学自治会同学会の阿津良典書記長(反戦スト被処分者)の講演会が行われました。講演会のタイトルは「大学ではじまる軍事研究、それとどう



連日の法大前での文連・全学連アピールに法大生が圧倒的注目!

立ち向かうか」です。シリア空爆が強行され、朝鮮戦争が切迫している中で多くの新入生が参加しました。

講演は2015年の京大反戦ストライキを振り返りながら、「なぜ戦争は起こるのでしょうか?」と問いかけながら新入生と討論するやり方で、非常に盛り上がりました(写真下)。「沖縄のように基地反対の意思が選挙で勝っても、国がひっくり返している。民主主義的な選挙で勝ってもダメならどうすればよいか?」という質問には、阿津書記長が「すべては実力闘争で決する」と答えるなど、活発な議論が行われ大成功しました。



4・18東北大新歓企画

## 辺野古新基地建設絶対阻止! 改憲・戦争の安倍たおそう!

### 4/28沖縄デー闘争in tokyo

〈日時〉4月28日(金)

□法政大学包囲デモ

12時30分~ ※13時~デモ出発

@法政大学市ヶ谷キャンパス前集合

□文部科学省・申し入れ行動

15時30分~ @霞ヶ関・文部科学省前

□学生労働者集会

18時30分~ @牛込筆筈区民ホール(新宿区筆筈町15番地)

辺野古新基地建設 絶対阻止  
改憲・戦争の安倍たおそう!

4.28

沖縄デー  
in tokyo



全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)  
TEL 03-3651-4861 MAIL mail\_cn001@zengakuren.jp HP http://www.zengakuren.jp

# 『学費返せ！』首都圏学生のアピール！

全国の悩める仲間に訴えたい。私は別に「決起せよ」とか「結集せよ」と居丈高に訴えるつもりはないし、「全学連に入れ」と訴えようだなんて滅相もない。私があなたに訴えたいのは、ただただ「叫ぼう」ということなのである。

悩める仲間はあなたのごことであり、私のことである。金がないから「奨学金」を借りるのに、全く同じ理由で保証人が立てられず機関保障費を取られて辟易するあなたである。「奨学金」申請のために控除額を加味して計算をすると、世帯年収の額面がマイナスうん百万円になって驚くあなたである。学内奨学金を取ろうにも、学費と生活費のためのバイトに時間を取られては受給に要する成績を取れるほど勉強できる時間も体力もあるはずがないあなたである。そうであるから読書にもサークルにも趣味にも、「時給1500円デモ」にも「全国大学反戦バリスト」にも費やす時間と体力の余裕がないあなたである。国内の貧困・格差に関するニュースを見て「こんな世界があるなんて信じられない」と言っている学生を尻目に「ニュースに取り上げるほどでもないほどありふれた身近なことじゃないか」と思っているあなたである。あなたこそ仲間である。

私たちには身に染みてわかっていることがある。それは学問は素晴らしいものであるということであり、その学問は資力に劣り体力をそぎ落とされる者には開かれていないということである。それでも私たちは大学に「通わなくてはならない」のである。通いたくなくたって、将来人並みの生活を送るためには大学を出なければならぬ社会がそこにあるんだから。せつせとTOEICの点を高くするなり自己啓発なりしていい会社に勤めなければ、結婚なんてもってのほか、まともに生活できるかすらも怪しい。そうであるから「奨学金」という借金をしてでも、授業に出ずにバイトをしてでも学費を納めなければならない。

私たちを困らせている学費なる存在は、明治の「被仰出書」以来生き続けてきた「受益者負担」の思想に支えられている。「勉強することで立身出世して得するのはお前なんだから、金は自分で出せ」という考えである。ところが、栗原康という人が次のような指摘をしている。曰く、多くの職種で大学レベルの教育を必要とされる現代において学生は資本主義を支える為に学習させられているのであり、「その時点ではたらかされているのであり、かんぜん搾取されている」（栗原康『学生に賃金を』新評論, 2015, p16-17.）のだという。あるいは労働者に認知的労働（ただ指示に従わせるだけの労働ではなく、認知資本＝知識の活用やコミュニケーション能力、ふるまいといった「およそ人間の生そのもの」を使わせる労働）を資本が強ければたちゆかない時代となり、大学はそのためにコミュニケーション能力やら問題解決能力やら自己管理能力やらを未来の労働者に教え込む就職予備校となったという（上掲書 p98-99.）。いずれにせよ、今私たちが夢のない大学に通うことで受益しているのは、まぎれもなく資本の側なのである。私たちは「奨学金」返済のために、あるいは絶え間なき消費のために、たいがいは大学で学んだ「スキル」を駆使して低賃金でコキ使われなければならないのである。クソみたいである。

そもそも「奨学金」はどのように有利子貸与なのか。1944年に学徒動員と引き換えに設置された大日本育英会（のちの日本育英会、現・日本学生支援機構＝JASSO）による貸与（＝「受益者」負担）「奨学金」は、創設後しばらくは完全無利子・免除制度ありという一応

の奨学金制度が維持されたが、三公社民営化で悪名高い第二臨調（土光臨調）から一変した。教育ローン市場への障害であるとして制度改革が進められ、有利子の第二種「奨学金」の導入と免除制度の廃止が行われた。加えて1999年に社会経済生産性本部が取りまとめた報告書が、大学の定員を大幅に引き上げること、教育費は全部「受益者」負担とすること、銀行の教育ローンを拡大して育英会は縮小することを提案した。また、報告書はわざわざ「学生は確実な貸付先」と保証して、銀行業界が教育ローンで莫大な利益を上げることを後押ししている。これを受けて2001年、小泉内閣の行革の一環として日本育英会はJASSOに再編・「民営化」された（上掲書 p127-137.）。

民営化されたJASSOが私たちの先輩にやってきたことはなんであつたか。「教育的配慮」と称するとりたて強化である。これはまぎれもなく借金というプレッシャーを以て、借金返済と劣悪な労働環境への拘束から逃げられないようにするという「教育」でしかない。金融業界のため、資本家のための有利子であり取り立て強化なのである。所得連動制度が導入されようともこの本質は変わるまい。

さて、そうやって私たちが借手に手綱を取られながら従事することとなる労働は何になる。資本家どもが搾取していった労働者の血と膏と肉との結晶は、彼らと彼らのお友達との間で「ぽっけないない」され「わけわけ」されるだけである。私たちの父母が命をすり減らして、私たちが青春を切り刻んで稼いだ学費は何になった。背の高いタワーが屹立する立派なみでくれの、それでいて内部では自由に声も上げられない就職予備校である。私たちが待っているのは借金で舗装された、無味乾燥な大学を経由した低賃金労働地獄への道のみなのである。あるいは大学は出たけれど、いい会社に就職したけれど、死ぬまで働かされてハイそれまでよ。立身出世も人並みの生活もあつたもんじゃない。どうあがいても絶望である。こんな大学に誰がした。こんな大学のために学費を取られてたまるか。資本家どものために学費を払わされてたまるか。

全国の悩める仲間に訴えたい。あえて借金地獄への道を進み続けるぐらいなら、こんなクソみたいな世の中に対して文句の一つ言ってやろうじゃないか。大学は、学生支援機構は、資本家は金を返せ。静寂を打ち破って、金を返せ、金をよこせと声をあげようではないか。叫ぶだけならタダである。体力も時間もいらぬ。生協価格で買った自己啓発本を読んで「圧倒的成長」を目指すくらいなら、無駄に綺麗な学内カフェに向かって金返せとみんなで叫んで、その写真を意識高い系よろしくFacebookに「最高の仲間です」とキャプションをつけて投稿してやろうじゃないか。

全国の悩める仲間に訴えたい。別に最初からデモだとかストだとか学長室占拠だとかなんて叫ばなくていい。金返せと叫び、叫ぶ仲間と結合しよう。矛盾に満ちた今の大学はクソだと思っているまだ見ぬ同志と団結しよう。仲間と団結することしか、私たちが金と青春を取り戻し、はたらく者が労働を取り戻し、世紀末覇者が愛を取り戻す道への第一歩は存在しないのである。そして、もし気が向いたら、私たちと一緒に闘ってほしい。一緒に闘う団結体を作りだそうではないか。

金を取り戻せ！（了）